



成田山界隈
まち歩き案内



藤倉商店(竹・木・籐)
創業1948年、「いいもの!ほんもの! 値うちもの!」がコンセプトの竹細工・木工品・籐製品など天然素材の実用雑貨専門店。取り扱い商品は、一番人気の竹製大根おろし(鬼おろし)をはじめ、日本全国各地の職人が製作した逸品ばかり約3000点。



TEL 0476-22-0372 成田市幸町488
営業時間 8:30~18:00 水曜定休
http://www.take-fujikura.com



竹製大根おろしダブル歯(受け皿は別売)



なごみの米屋 総本店(土産・お食事処)

明治32年、成田山の代表銘菓として名代の栗羊羹を創始して以来、参詣客や地元の方々に賑わうお店。和菓子販売のほか、そばや甘味の喫茶があり、2階には成田生涯学習市民ギャラリーも設置。

TEL 0476-22-1661 成田市上町500 営業時間 8:00~18:00 年中無休
http://www.nagomi-yoneya.co.jp/



びーなっつ最中

成田羊羹資料館

新勝寺と歩んだなごみの米屋の歴史と羊羹のルーツを展示。常設展のほか、企画展も催されていて内容豊富。

TEL 0476-22-2266 開館時間 10:00~16:00
※展示替えの際のみ休館



お不動様旧跡庭園

なごみの米屋の敷地内にある美しい庭園。室町時代以降、戦火により荒れ果てた成田山のご本尊の不動明王を、創業者の祖先が自分の屋敷で預かり祀った。その名残を留めるために復元した庭園跡を自由に散策できる。



成田山公園

境内に隣り合う緑と水、森と林の大公園、池に沿って日本庭園、噴水のある西洋公園など、四季を通じて参詣客や市民の憩いの場となっている。

TEL 0476-22-2111(成田山新勝寺) 成田市成田1



西洋庭園



表参道

緩やかな坂道に沿う屋根並の向こうに新勝寺の伽藍が見え隠れする。昔ながらの旅館、名産の土産物屋、老舗の味どころなどが並び、参詣客を迎えている。



川村佐平治商店(鉄砲漬)

白瓜の種の部分を鉄砲のようにくり抜き、シンの葉で巻いた唐辛子を詰めて漬けた鉄砲漬。お不動様にあやかり、鉄砲不動漬の名で売り出している。

TEL 0476-22-0156 成田市仲町381 営業時間 8:30~17:00 不定休



三芳家(土産・お茶処)

賑やかな参道脇にひっそりと佇む隠れ家的なお店。池や竹林に囲まれた、緑豊かな空間でお茶と甘味で一息ついてみては。

TEL 0476-22-2147 成田市仲町386-2 営業時間 10:00~17:00 水曜定休



自家製白玉あずき



川豊本店(うなぎ)

明治43年、印旛沼や利根川で獲れる川魚の卸として創業。「さきたて、焼きたて、蒸したて」がモットーで、店先の大きないちょうのまな板の上で職人さんたちが手際よくうなぎを捌いていく姿は圧巻。庶民的な店構えで、気軽に老舗の味を楽しめる。

TEL 0476-22-2711 成田市仲町386 営業時間 10:00~17:00 月曜定休(月曜祝日の場合火曜) ※1.2.5.9月は無休 http://www2.ocn.ne.jp/~kawatoyo



成田山開帳参詣群集図 三代歌川豊国画

大本堂



三重塔



総門

成田山新勝寺

東京の目黒などととも日本三大不動尊として多くの庶民に親しまれ、新年の初詣客は300万人弱を数え、明治神宮に次いで全国2位。広大な境内には元の本堂である光明堂や釈迦堂、三重塔などがあり、いずれも国重要文化財に指定されている。

TEL 0476-22-2111 成田市成田1 http://www.naritasan.or.jp/



光明堂



成宗電気軌道跡

明治末から昭和中期にかけて千葉県唯一の路面電車として活躍。赤煉瓦造のトンネルが現存している。



JR成田駅

白壁に黒い柱、大きな提灯も吊り下げられ、新勝寺前町の玄関らしい和風の行末を演出している。

江戸歌舞伎の名門市川團十郎家は、初代がご祈禱によつて男子を授かったことから不動明王を深く信仰し、屋号を「成田屋」と称しました。そして大鏡や大提灯を奉納、7代目は額堂を千両で寄進するなどしたのです。天保4年(1833)の貞秀の絵には、当時人気絶頂の歌舞伎役者8代目市川團十郎や、7代目海老蔵が登場しています。いまでも初詣や襲名披露や節分の豆まきなど、新勝寺は市川家との深い繋がりをもち続けています。JR成田駅は、白壁と黒い柱に大きな提灯をかけた、いかにも門前町の玄関らしい佇まいです。新勝寺まで約1kmの「表参道」は、名物の羊羹や地酒、鉄砲漬、佃煮、鰻を商う店や旅館が立ち並んでいます。電柱が取り払われ、十二支の石像も置かれた道は、平成17年度都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」を受賞しました。ゆるやかな坂にかかると、幾重にも重なる商家の屋根越しに新勝寺の建物が見えかくれし、まさに広重の「下総成田山境内」そのままの風景が展開します。昔の旅籠の佇まいを残す梅屋、大野屋(登録有形文化財)の玄関の黒光りした柱には、参詣客の息づかいがいまも漂っているようです。

坂を降りきると新勝寺の大きな総門がそびえ、正面が国重要文化財の仁王門、背後の放生池には生命の象徴とされる亀が群がっていて、参詣客の眼を惹きつけます。階段を上ると大本堂、毎日早朝からの御護摩で香煙が絶えません。華麗な色彩の三重塔は正徳2年(1712)建立の国重要文化財で、雲水紋の一枚垂木が珍しく有名です。大本堂から釈迦堂、額堂、光明堂が続き、平和の大塔から見下ろすのが広大な成田公園で、池・滝・梅林・紅葉など、四季の風情を自由に楽しむことができます。「表参道」と並ぶのが成田の近代の歴史を象徴する「電車道」です。明治41年、成田山と宗吾霊堂を結ぶ成宗電気軌道が開通しました。千葉県唯一の路面電車で、大正から昭和にかけて参詣客の足となって喜ばれました。しかし戦争の影響もあって廃線となり、会社はいまの千葉交通バスに受け継がれています。線路跡の道には2つの赤煉瓦のトンネルが残っていて、明治時代の成田の街の気概を伝えています。

いま、この町には外国人の姿が目立ちます。空港に降り立ち、まず異国情緒に触れられるのが、この成田の門前町と新勝寺だからでしょう。お寺の門前町から国際的な日本の門前町へ、成田にはいまも新しい活気が溢れています。

※2 額堂：信者の奉納する額や絵馬を掲げておく堂。
※3 放生池：殺生を戒める仏教の教えにより捕らえた魚類などを放つために設けた池。